

# 六字城

ROKUJIJO

2022/9/1

No.694

大阪市北区東天満 1-8-26  
06-6351-3535  
http://www.tenma-betsuin.jp  
代表者 輪番・武宮 信勝



## 「一枚のハガキ」

武宮 信勝

つい先日の夕方、別院のほど近く天満橋の下を流れている大川を散策した。西寄りのほのかな風が頬をつたわる汗を癒してくれた。堤防に立ち並ぶ木々に数匹のトンボが夕日に照らされて飛び交っている。静かに波打つ水面を眺めつつ、ふっと亡き母親の面影を偲んだ。

大正元年、福井の大野生まれ、17歳頃、京都東本願寺前の花屋町に身を寄せた。池坊・裏千家の教授であった姉の下でお手伝いをしていたと聞いている。そんな最中父と知り合い、未開の地、北海道へ寺での坊守道を歩む決心をされた。母の苦勞は想像の域を脱しないうが、何といっても私が2歳の時、父の自転車転倒事故が災いとなり、以後命終（58歳）までの17年間、寝たきりの病床生活ではなかったかと思う。子供6人の子育て、介護、坊守兼住職代務者の法務。今のような車社会でもなく、降る日も、凍てつく冬の日も衣をまとい遠い道のりを歩いてまわっていた。父の死後学業を終えた兄が3代目住職になって、やっと人並みの生活を送ることができたのかも知れない。

そんな母が平成13年10月19日に命終。享年91であった。その三年前の母のハガキが私の手元にある絶筆ともなったハガキ。おこがましくも紹介させていただきます。

前略

私も病気が少しずつ良くなって来ました。ありがとうございます。命があつて皆様にお会い出来たこと（※1）喜んでいきます。幸いっばい。命がいつばい。勿体ない何物にも替えられない、今日の命がもつたいない。今日も又、見えて聞かえて、立てて歩いて太陽がいつばい。空気がいつばい。ご恩がいつばい。書きたいことはいつばいですが、字がかげないのです。ただただ南無阿彌陀仏の御こころを信じ申させていただきます。あなたもお念仏を申し続けてください。私も来年100周年の式典（※2）まで生かさせていただきます。平成年10月13日 合掌

※1 同年に行われた前任職（父）33回忌法要。兄妹皆参詣。  
※2 開教100周年記念法要

今の自分に父母への恩徳は、計り知れないものがある。この一枚のハガキは言葉で言い尽くせない重いものであります。皆さんにもきつと深く重い思い出があることでしょう。これから迎える秋の夜長。寝食を共にした身近な人を偲んで見ても如何でしょうか。

## 法要・行事予定

| 9月   |  | 10月         |                    |
|--|--|-------------|--------------------|
| 10日  | 天満別院合唱団「みのり」 (14時)                         | 2日          | 真如上人御祥月御命日 (8時)    |
| 12日  | 闍如上人御遠夜・常永代経 (14時)                         | ～報恩講～       |                    |
| 13日  | 闍如上人御命日 兼日中 (8時)                           | 3日          | 初遠夜 (13時30分)       |
| 23日  | 秋季彼岸会 並 総永代経法要<br>兼 墓地納骨（物故者）追弔法要 (13時30分) | 4日          | 日中 (10時)           |
|  | 茨田 通俊師 (第6組 願光寺)<br>「亡き人に出遇わば空しく生きず」       | 5日          | 結願遠夜 (13時30分)      |
| 27日  | 宗祖聖人御遠夜 (14時)                              | 12日         | 闍如上人御遠夜・常永代経 (14時) |
| 28日  | 宗祖聖人御命日 兼日中 (8時)                           | 13日         | 闍如上人御命日 兼日中 (8時)   |
|  | 法話 輪番 武宮 信勝<br>報恩講～お待ち受け奉仕～ (9時)           | 14日         | 巧如上人御祥月御命日 (8時)    |
| 30日  | 合唱団「みのり」リハーサル (14時)                        | 27日         | 宗祖聖人御遠夜 (14時)      |
| <b>おあさじにお参りしましょう!!</b><br><b>毎朝7:45分～8:30分頃まで</b><br><b>土、日は職員による感話があります</b> |  | 28日         | 宗祖聖人御命日 兼日中 (8時)   |
|  |  | 法話 輪番 武宮 信勝 |                    |



## 告知



報恩講お待ち受け奉仕のお願い

左記の通り、来る10月の報恩講に向けて、ご門徒の皆様とともに、おみがき・各部屋の清掃のお手伝いを、お願いしたいと存じます。ご参加をお待ちしております。

日時 9月28日（水）9時から

場所 天満別院 本堂

服装 汚れても構わない服

## 今月の伝道掲示板

人の短を  
道うこと無かれ  
己の長を  
説くこと無かれ

—空海—

## 編集後記

8月下旬は雨が降り、涼しい日もありました。晴れると暑さはいつも通りに戻り、それが身体に堪えました。能登にある自坊はよく地震が発生する地域なのですが、加えて大雨によって道路が冠水したと聞きました。今まで聞いたことなかったことです。全国各地、未曾有の災害が起きています。9月は台風の時期でもありますので、今一度、備えを見直そうと思います。

寺町という歴史ある地域に  
根ざした老舗葬儀社

**(株) 天満花重**

〒530-0041  
大阪市北区天神橋 3-4-6  
電話 (06)-6351-3875  
FAX (06)-6351-6260

おかげさまで創業120周年  
あなたの街の石屋さん

**株式会社 太田石材店**

～仏事その他何なりとお気軽にご相談ください～

**0120-305-075**

本社  
〒536-0001 大阪市城東区古市1丁目23番20号  
TEL 06-6930-5075 FAX 06-6930-5078

# 秋季彼岸会

並

## 総永代経法要

兼・墓地納骨(物故者)追弔法要

日時

9月23日(金)午後1時30分

講題

「亡き人に出遇わば空しく生きず」

法話

茨田 通俊師 (第6組願光寺住職)

### ご講師からのメッセージ

お彼岸は亡き人をご縁として、迷いの世界に生きる私たちが浄土の世界に到ることを願う大切な仏事です。

親しい人を亡くすことは大きな悲しみを伴います。しかしその悲しみが、生老病死といういのちの真実の相を私たちに教えてくれています。この彼岸会の法座において、先んじて命を終えていかれた方々が、身をもって示された事実に向け、そして今も諸仏となって問いかけて下さる声に、静かに耳を傾けてみてはいかがでしょうか。

どういふ境遇を生きなければならないとしても、この与えられたご縁を精一杯生き尽くしていく、限りあるが故にかけがえのない人生を力強く歩んでいくことが、亡き人々から願われています。まさに亡き人との出遇いがあれば、私たちは与えられた人生を決して空しく過ごすことはないでしょう。

### Q&A

お釈迦様をお内仏にまつらないのはなぜか？



**答え**  
 実は私も仏教を習い始めた頃に不思議に思っていました。確か、仏教はお釈迦様が開祖だったはずなのに、お釈迦様が出て参りません。二つのものを尊いとするご宗旨でござります。おひとつはお釈迦様のこと。残り一つは、阿彌陀様のこと。更に私は混乱致します。お釈迦様がお勧め下さる極楽浄土へ願生するのが真宗門徒。本にも、如来として登場されており、何やら解りません。

いずれにしてもどちらも尊いお方なので、ご本尊は二つじゃないか、なんて訝しく思っていました。「二河白道」と言う有名な比喻を習いました。紙面が限られているので詳しくは他の機会に致しますが、要するに白い道(仏道)があつて、「この道を通り直ぐ進め」とお釈迦様の強い勧誘があつて進んで行った先に「全ての衆生をすくう」とのお約束を頂いた阿彌陀様に出会えるというお話です。お釈迦様の法(仏法)に従って進んでいくとお浄土(悟りの世界)に私どもが到達できるのです。その仏法と「お念仏を称えよ」との勧誘です。南無阿彌陀仏の六字名号そのものを「ご本尊」としてこそ、真宗のみ教えが成就すると思えます。お釈迦様がお勧め下さる極楽浄土へ願生するのが真宗門徒。(第15組大長寺沼田和隆)

### 報告

#### 八月 同朋の会

去る8月5日(金)同朋の会が開かれました。今回は大阪教区に5つある別院の1つ難波別院(南御堂)さんへ団体参拝を致しました。

難波別院では禿御輪番からの御挨拶を頂いたのち、新しくされた納骨堂や志納所、また報恩講で御門首が控えられる御部屋などその他諸施設を見学しました。

天満別院から比較的近い場所にある難波別院を改めてしっかりと参りすることができ、充実した日になりました。



別院本堂前で記念撮影

### 盂蘭盆会法要 勤修

去る8月13日(土)「盂蘭盆会」が勤まりました。御講師には、12組清澤寺住職澤田見師をお迎えし、講題「逆さまなのは誰なのか？」についてお話いただきました。

師は、盆とは盂蘭盆からきており倒懸(逆さぶり)と言う意味があります。盆とは亡き人を案ずることですが、逆に亡き人から案ずられているんだと言われていました。つまり真宗の盆(盂蘭盆)とは改めて先祖の前に立ち自分の願いや思いを考え思い返す場なんだと言われていました。

お盆の期間中は天候もよく大変な暑さになりましたが、本堂にもお墓にもたくさんの方が参詣されていました。



澤田 見 師